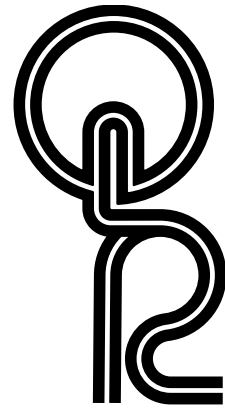


# QR Newsletter

## 第四紀通信

Vol. 11 No.1, 2004



東チベット理塘 Litang 高原（四川省、理塘県）に残る氷河地形  
（2003年9月、亀井理依子撮影）

---

---

Vol. 11 No. 1

February 1, 2004

2004年合同大会情報・・・・・・・・・・ 2	50周年記念事業企画答申書・・・・・・ 13
論文賞候補者の推薦について・・・・ 8	第四紀学専門委員会議事録・・・・・・ 18
2004年大会のお知らせ・・・・・・・・・・ 9	幹事会議事録・・・・・・・・・・・・・・ 18
国際会議の案内・・・・・・・・・・・・・・ 10	

---

---

## 地球惑星科学関連学会 2004 年合同大会のお知らせ

地球惑星科学合同大会運営機構

地球惑星科学関連学会連絡会ニュース No.29(2003 年 12 月)より

### § 1 合同大会案内サマリー

会期: 2004 年 5 月 9 日(日) - 13 日(木)  
(5 月 9 日 特別公開セッション「新しい地  
学教育の試み」)

会場: 幕張メッセ 国際会議場

各種受付開始日・締切日:

開催日の都合上,各登録締切が例年より,早  
い時期に繰り上がっています. ご注意下さい.

	受付開始日	受付締切日
予稿集原稿 投稿	2004/1/5 (月)	早期〆切: 2004/1/26(月) 24:00
		最終〆切: 2004/2/6(金) 17:00
大会参加登録 事前申込		全日程参加: 2004/3/12(金) 17:00
		1日のみ参加: 2004/4/28(水) 17:00
オンラインクレジ ットカード決済	2004/3/15 (月)	投稿料及び参加費*1 2004/3/31(水) 17:00

\*1 参加費は3/12以前お申し込み分のみが対象と  
なります.

3/13以降お申し込みの事前一日券は当日,受付に  
てお支払下さい.

各種料金:

予稿集原稿投稿

早期投稿	2004/1/26まで	1,500円
通常投稿	2004/1/27以降	3,000円
図掲載	Webアップロード	500円
	郵送	1,000円

\*\* 投稿料金は,新規投稿を終えた時点で課金さ  
れます.その後内容を変更されても料金は変わりま  
せん.

\*\* 図の掲載は,希望者のみ,投稿〆切時点の選択  
肢で確定され,新規投稿料に加算されます.

事前参加登録申込

全日程	一般 10,000円 学生 8,000円
一日券	共通 5,000円

当日参加登録申込

全日程	一般 12,000円 学生 8,000円
一日券	共通 6,000円

\*\* 学部生および70歳以上の方は,参加登録が無  
料となります.

お支払方法:

オンラインシステムによるクレジットカード  
でのお支払になりました.振り込みに行く手間  
が省けます.(郵便振替は廃止させていただきます)

事前参加登録(全日程)締切後3/15(月)に,各  
お申込者へ「請求メール」をお送りします.内容  
に従って,Webサイトより,支払入力をお願いし  
ます.

\*\* 校費払いは銀行振り込みとします.事務局へご  
連絡ください.

(ご注意)

\*\* 3/13以降の参加登録(一日券)お申し込みは  
大会当日払いとなります.お申し込みは3/12まで  
にお済ませ下さい.

\*\* 支払方法の変更により,請求書の送付はあり  
ません.請求書の必要な場合は,事務局へ直接お申  
し付けください.

\*\* 特別な事情でクレジットカード以外でのお支  
払をご希望の場合,事務局へご連絡下さい.

大会ホームページ:

2004 年合同大会に関する情報および各種登  
録ページが置かれています.

\*\*\*\*\*

合同大会ホームページ

<http://www.epsu.jp/jmoo2004/>

\*\*\*\*\*

詳しくは上記のホームページを是非ご覧下さ  
い.変更内容の情報は随時更新します.

お問い合わせ先:

(問い合わせ先一覧は大会ホームページに掲  
載されています)

各種登録システムサポート [sys@epsu.jp](mailto:sys@epsu.jp)

・登録ページにアクセスできない

・文字入力ができない

・確認メールが来ない etc...

個人情報登録・参加登録 [reg@epsu.jp](mailto:reg@epsu.jp)

・ID & パスワード照会

・ID 削除したいとき

- ・e-mailをお持ちでない方
- ・海外から登録される方
- ・参加登録変更, 取消 (要受付期間確認) etc...

セッション・予稿集原稿投稿 abs@epsu.jp  
(但し, システムサポートは )  
会合の申込 meet@epsu.jp

上記以外大会全般 :  
(特別公開セッション, 展示, 予稿集バックナンバー請求等)  
合同大会運営機構 事務局  
〒133-0033  
東京都文京区本郷 7-3-1  
東京大学理学部新1号館 719室  
Email: office@epsu.jp  
Fax: 03-5800-6839

## § 2 セッション案内

2004年合同大会では, 以下の全87セッションが開催されることになりました. 各セッションの詳細・御問合せ先は合同大会ホームページに掲載している「セッション一覧」をご参照ください.

講演要旨(予稿集原稿)の投稿について  
1/5 ~ 2/6の期間に合同大会ホームページ上で行って下さい. 例年より, 締切が早くなっています. 投稿はお早めにお願ひ致します.

プログラム編集作業について  
2月中-下旬に行われます. 代表コンピーナーの方にご協力をお願いすることがありますので, 連絡が取れますよう日程のご調整をお願いします. また, 期間中ご不在の場合は代理の方をプログラム委員会(pcom-ml@epsu.jp)へ, 予めお知らせ下さい.

特別公開セッションの開催  
新しい地学教育の試み  
- 地球惑星科学から「高校地学」へ -  
セッション開催日: 2004/5/9 (日)  
10:30- (予定)

参加費: 無料  
参加お申込み・お問い合わせ: 運営機構事務局

2003年合同大会で開催された特別公開セッション「地学教育の昨日・今日・明日 - 地球惑星科学は理科・地学離れを救えるか? -」では, 地学教育が抱える様々な問題点が浮き彫りにされ, 地学教育再生のための試みを様々な観点から行っていくことの必要性が, 出席者の間で改めて確認されました.

これを受けて2004年合同大会特別公開セッションでは, 履修者数減少という形で最も顕著に問題が表面化している高校「地学」の教科内容に主眼をおき, 引き続き地学教育に取り組みます. 『本当に教えて貰いたい内容は何か?』セッションでは, その内容を教材の形で募集し, 該当分野における位置付けなどの発表を企画しております. 現在発表者の募集をしております. 詳細は合同大会HP又は, 地学教育委員会education-core@epsu.jpまでお問合せください.

2004年大会開催セッション一覧  
特別公開セッション:  
・新しい地学教育の試み  
- 地球惑星科学から「高校地学」へ -

ユニオンセッション:  
・宇宙生存圏科学  
・固体地球, 表層環境, 生命の共進化

レギュラー・スペシャルセッション  
(レギュラーセッションの提案学会・グループについては, <http://www.epsu.jp/jmoo2004/Rsession.html> をご覧ください)

- 大記号・分類名 -      - セッション名 -

### V 火山学

- ・活動的火山
- ・マグマシステムと噴火・堆積機構
- ・火山爆発のダイナミクス
- ・御岳火山 - 群発地震と火山活動 -

### K 岩石・鉱物学

- ・深成岩とマグマ - その発生から进入固結まで -
- ・鉱物の物理・化学
- ・伊豆-小笠原-マリアナ弧とサブダクションファクトリー

### S 地震学

- ・地震に伴う諸現象
- ・地震予知
- ・地震発生の物理
- ・地震一般
- ・地震活動
- ・地盤構造・地盤震動
- ・強震動・地震災害
- ・震源過程・発震機構
- ・地震の理論・解析法
- ・地殻構造
- ・地震計測・処理システム
- ・陸域震源断層の深部すべり過程のモデル化

### H 水文・陸水・地下水学

- ・水循環・水環境

- ・同位体水文学 2004
- ・都市域の地下水・環境地質
- ・北東アジア植生変遷域の水循環と生物・大気圏の相互作用
- W 雪氷学
  - ・コア研究が拓く地球史・人類史
- D 測地学
  - ・重力・ジオイド
  - ・GPS
  - ・測地学一般(含, 計測技術, 地球潮汐)
  - ・地殻変動
  - ・衛星測位技術の変動する重力場研究への応用
- F 大気・海洋学
  - ・衛星測位技術の大気圏・電離圏科学への応用
- Q 第四紀学
  - ・第四紀
  - ・沖積層研究の新展開
- C 地球化学
  - ・固体地球化学・惑星化学
  - ・地球環境変化と大気水圏の物質循環
- L 地球環境・気候変動学
  - ・古気候・古海洋変動
  - ・高緯度域における最新の古海洋研究
- B 地球生命科学
  - ・生命-水-鉱物相互作用の場実態
  - ・アーキアパーク計画: 海底熱水系における地圏・生物圏相互作用
  - ・アストロバイオロジー: 宇宙における生命の起源・進化・分布と未来
- E 地球電磁気学
  - ・太陽圏・惑星間空間
  - ・宇宙プラズマ理論・シミュレーション
  - ・電気伝導度・地殻活動電磁気学
  - ・地磁気・古地磁気
  - ・電離圏・熱圏
  - ・磁気圏-電離圏結合
  - ・大気圏・熱圏下部
  - ・宇宙天気
  - ・磁気圏構造とダイナミクス
  - ・電磁現象による地殻活動予測の可能性
- I 地球内部科学
  - ・地球構成物質のレオロジーと物質移動 - 流動・破壊・摩擦現象と水
  - ・地球深部ダイナミクス: プレート・マントル・核の相互作用
- T 地球惑星テクトニクス・ダイナミクス
  - ・地下温度構造・熱過程
  - ・テクトニクス
- G 地質学
  - ・地域地質と構造発達史
  - ・堆積物・堆積岩から読みとる地球表層環境情報

- ・長期火成活動と火山発達史
- ・放射性廃棄物の地層処分-地層処分に於ける地球科学的課題の検討-
- ・変形岩・変成岩とテクトニクス
- ・氾濫原堆積物の特徴とそれに含まれる脊椎動物を主とする化石群集
- Y 防災・応用地球科学
  - ・地質ハザード・地質環境
- P 惑星科学
  - ・惑星科学
  - ・変遷する火星
  - ・宇宙惑星における固体物質の形成と進化
  - ・系外地球型惑星, 木星型惑星
  - ・月の科学と探査
- Z その他
  - ・地球温暖化防止のためのCO<sub>2</sub>固定とカーボンサイクル
- J ジョイント
  - ・宇宙・惑星観測技術
  - ・地球年代学・年代層序学
  - ・活断層と古地震
  - ・地球流体力学-地球惑星科学における「遷移現象と多重解」へのアプローチ
  - ・オフィオライトと海洋地殻
  - ・岩石・鉱物・資源
  - ・情報地球惑星科学
  - ・惑星地球システムの安定性と不安定性
  - ・惑星圏のリモートセンシング
  - ・地学教育
  - ・巨大地震発生帯の科学
  - ・キッチン地球科学
  - ・海洋底地球科学
  - ・オフ・フォールト・パレオサイスモロジー
  - ・断層帯のレオロジーと地震の発生過程
  - ・大学等からのボトムアップ提案による地球観測科学衛星構想
  - ・地球内部の能動的モニタリング
  - ・映像でみる地球惑星科学

### § 3 各種登録について (変更・取消等)

合同大会では、以下 ~ の登録が必要です。全て大会ホームページから行って下さい。

- 個人情報登録
- 参加登録(事前申込)
- 予稿集原稿投稿(講演申込)
- オンラインクレジットカード支払
- 郵送先住所指定登録

#### § 3.1 個人情報登録

合同大会では、個人情報登録によって、ID番号を取得していただいております。ID番号は各種登録、照会に必要です。登録は無料で



## 合同大会のお知らせ

録とは別に行われます。この手続きをなさらずに、運営機構に連絡無く参加されなかった方にも、参加費を請求させていただきます。請求は大会後なされます。この場合、事務手数料3000円が加算されて請求がなされますので、どうぞご注意ください。

§ 4.3 合同大会当日の受付時間について  
合同大会期間中の受け付け時間、場所は以下の通りに開設する予定です。

当日総合受付

5/9(日)～13(木)AM 8:30～PM 5:00  
(予定)

1F 受付カウンター

(参加登録・予稿集原稿 CD-ROM 販売・各種案内)

§ 4.4 団体展示・書籍出版展示

合同大会では、2F 中央ロビー及びホワイエにて、研究団体・企業・出版社などによる研究紹介・書籍・機器などの展示ブースを設けております。21世紀プログラム拠点大学の展示もございます。様々な形で自由にご利用頂き、有効な情報交換の場としてご利用ください。ご利用希望の方は、事務局へご連絡下さい。詳細(申し込み要綱)をご案内します。尚、お申し込みは2月末日(最終締切)まで、スペースに限りがございますので、お早めにお申し込み下さい。詳細は、大会HP「各種おしらせ」をご覧ください。

§ 4.5 合同大会会場における会合申込み

会合・集会を行う団体の部屋使用希望の申し込みは、プログラム日程決定後下記の通り、先着順で受付します。会場内の部屋数に限りがございますので、満室になった場合は、できる限り会場周辺の会議施設をご紹介させていただきますが、やむを得ず、ご希望に添えない場合があります。ご了承ください。

尚、部屋使用料金、お弁当等の詳細はHP「会合のお申込」をご覧ください。

お申し込み受付

2003/2/16(月)～5/2(金)

お申し込み先

運営機構総務局2004年会合係(E-mail:  
meet@epsu.jp)

お申し込み内容

- 1) 会合名称
- 2) 申込み責任者とそのメールアドレス
- 3) 使用人数
- 4) 希望する時間(開始・終了時刻)
- 5) 食事の希望有無(有の場合は弁当数)

§ 4.6 保育希望の方へ

合同大会では、保育をご希望されます方へ、会場に隣接する千葉市認定保育施設をご紹介します。保育室の利用につきましては合同大気運営機構財務局より金銭的補助をいたします。詳しくは大会HP「各種お知らせ」にてご確認ください。

§ 4.7 2004年合同大会運営機構組織構成と連絡先

大会委員長 平原和朗(名古屋大・理)

<<運営機構>>

jm-ml@jmoo.eps.s.u-tokyo.ac.jp

代表 浜野洋三(東大・理・地惑)

財務局

fc-ml@jmoo.eps.s.u-tokyo.ac.jp

中村正人(2004年担当責任者 宇宙航空研究開発機構)

高橋幸弘(2004年担当副責任者 東北大・理)

木村 学(東大・理・地惑)

志茂久男(国土地理院)

佐倉保夫(千葉大・理・地球)

綱川秀夫(東工大・理工・地惑)

渡辺誠一郎(名大・理・地惑)

企画局

plan-ml@jmoo.eps.s.u-tokyo.ac.jp

大村善治(2004年担当責任者 京大・宙空電波研)

木村 学(東大・理・地惑)

安藤雅孝(名大・理・地震観測センター)

浦辺徹郎(東大・理・地惑)

大谷栄治(東北大・理・地球物質)

末広 潔(海洋科学技術センター)

深尾良夫(東大・地震研)

丸山茂徳(東工大・理工・地惑)

安原正也(地質調査所)

ロバート・ゲラー(東大・理・地惑)

情報局

it-ml@jmoo.eps.s.u-tokyo.ac.jp

坪井誠二(2004年担当責任者 海洋科学技術センター研)

竹内 希(東大・地震)

宮本英昭(東大・工・地球システム)

田近英一(東大・理・地惑)

大村善治(京大・宙空電波研)

倉本 圭(北大・理・地惑)

林 祥介(北大・理・地惑)

古屋正人(東大・地震研)

坂本尚義(東工大・地惑)

綿田辰吾(東大・地震研)

総務局

ga-ml@jmoo.eps.s.u-tokyo.ac.jp

岩上直幹(2004年担当責任者 東大・理・地惑)

石橋純一郎 (九大・理・地惑)  
 沖野郷子 (東大・海洋研)  
 中村美千彦 (東北大・理)  
 浜野洋三 (東大・理・地惑)  
 松浦充宏 (東大・理・地惑)  
 湯元清文 (九大・理・地惑)  
 渡部重十 (北大・理・地惑)  
 プログラム局  
 pro-ml@jmoo.eps.s.u-tokyo.ac.jp  
 吉田尚弘 (2004年担当責任者 東工大・総合理工)  
 原 辰彦 (建築研)  
 岩森 光 (東大・理・地惑)  
 阿部 豊 (東大・理・地惑)  
 小野高幸 (東北大・理)  
 安藤寿男 (茨城大・理)  
 北 和之 (茨城大・理)  
 篠原 育 (宇宙航空研究開発機構)  
 多田隆治 (東大・理・地惑)  
 中嶋 悟 (東工大・理工・理学研究流動機構)  
 村江達士 (九大・理・地惑)  
 近藤 忠 (東北大・理)  
 渡辺誠一郎 (名大・理・地惑)

合同大会はボランティアで成り立っています。皆様の積極的参加をお願いします。

<<共催学会選出プログラム委員 正・副>>  
 pcom-ml@epsu.jp  
 資源地質学会  
 関 陽児 (産総研)・中山 健 (金属鉱業事業団)  
 地球電磁気・地球惑星圏学会  
 高橋幸弘 (東北大)・石川尚人 (京都大)  
 日本火山学会  
 下司信夫 (産総研)・大野希一 (日大)

日本岩石鉱物鉱床学会  
 榎並正樹 (名古屋大)・廣井美邦 (千葉大)  
 日本測地学会  
 加藤照之 (東大・地震研)・松本晃治 (国立天文台・水沢)  
 日本第四紀学会  
 奥村晃 (広島大)・宮内崇裕 (千葉大)  
 日本鉱物学会  
 塚本尚義 (東工大)・三河内 岳 (東大)  
 日本水文科学会  
 杉田倫明 (筑波大)・高橋正明 (産総研)  
 日本地震学会  
 鷲谷 威 (名古屋大)・岡元太郎 (東工大)  
 日本地下水学会  
 丸井敦尚 (産総研)・林 武司 (産総研)  
 日本地球化学会  
 鈴木勝彦 (固体地球統合フロンティア研究システム)・角皆 潤 (北海道大)  
 日本地質学会  
 七山 太 (産総研)・久田健一郎 (筑波大)  
 日本惑星科学会  
 はしもとじょーじ (神戸大)・山本 聡 (東大)

(以上学会五十音順敬称略)

\*\* 合同大会15周年記念パーティーの開催について \*\*

2004年合同大会は合同大会が始まって15回目の記念すべき大会です。長年、合同大会の育成に力を尽くされた本蔵先生を中心に、“合同大会15周年記念パーティー”を企画しております。どうぞ、奮ってご参加くださいますようお願い申し上げます。詳しい情報は決まり次第、一斉メール、またHP上で公開いたします。

## 日本第四紀学会論文賞受賞候補者の推薦について

本賞は会誌「第四紀研究」に優れた論文を発表した会員の表彰を通じて、第四紀学の進歩と本学会の発展を図ることを目的としています。本賞は規定により、毎年、会員の皆様から自薦・他薦によって候補者を御推薦いただき、論文賞受賞候補者選考委員会において候補者の選考と受賞者の決定を行うことになっております。受賞者は6月末日までに決定され、8月に山形大学で開催される2004年度総会で表彰される予定です。

つきましては、下記を御参照の上、日本第四紀学会論文賞の受賞候補者を御推薦いただきますよう、会員各位にお願い申し上げます。

### 記

- 1)選考対象：「第四紀研究」第41巻(2002年)および第42巻(2003年)に掲載された、会員を筆頭者とする原著論文、短報、総説および特集号の論文
- 2)推薦書類：推薦書類には、推薦者名(自薦を含む)、受賞候補者名、受賞候補論文名(巻号頁を明記)および推薦理由を記入する。
- 3)推薦書類の提出先：  
〒113-8622 東京都文京区本駒込5-16-9 学会センターC21内  
日本第四紀学会 論文賞受賞候補者選考委員会
- 4)推薦書類の受理期限：2004年3月31日(必着)

### (参考資料)

・日本第四紀学会 学会賞規定(1994年8月26日評議員会,8月27日総会,1997年8月6日総会改正)

### [目的]

第1条 本規定は日本第四紀学会会則第3条3項に基づき、第四紀学の発展に貢献する優れた研究業績をあげた会員の表彰に係わる事項を定める。

### [賞の名称]

第2条 本学会に日本第四紀学会論文賞を設ける。

### [授賞の対象]

第3条 日本第四紀学会論文賞は、会誌「第四紀研究」に第四紀学の発展、進歩に貢献する優れた論文を発表した著者に授与する。

### [受賞者の選考]

第4条 日本第四紀学会論文賞受賞候補者を選考するため、論文賞受賞者選考委員会(以下「選考委員会」と略称する)をおく。

第5条 選考委員会は、評議員の投票により選出された5名の論文賞選考委員(以下「選考委員」と略称する)で構成し、選考委員の互選により選考委員長をおく。選考委員の任期は1年とし、連続して選考委員に就任することはできない。

第6条 本学会会員は、選考委員会に対して日本第四紀学会論文賞受賞候補者を推薦することができる。

第7条 選考委員会は毎年6月30日までに選考を終了し、受賞者を決定する。選考委員会は必要に応じて参考人から意見を聴取することができる。

### [受賞者の発表]

第8条 選考委員長は評議員会及び総会において選考経過と結果を報告する。

### [授賞式]

第9条 授賞式は総会で行い、賞状及び副賞(賞金)を授与する。

### [その他]

第10条 本規定に定めるもののほか、学会賞に係わる必要事項は内規として評議員会が別に定める。

### [規定の変更]

第11条 本規定の変更には評議員会の承認を必要とする。

### [規定の施行]

第12条 本規定は1997年8月6日から施行する。

・日本第四紀学会論文賞選考に関する内規(1994年8月26日評議員会,8月27日総会,1995年1月28日評議員会,1997年8月6日総会,1999年1月30日評議員会改正)

1.論文賞は、当分の間、若手研究者の育成と研究奨励に寄与することを目的とする。

2.選考の対象とする論文は、授与年の前々年及び前年の2年間(2巻分)の第四紀研究に発



表された原著論文、短報、総説、及び特集号の論文とする。

3. 論文賞の授与は原則として毎年とし、受賞論文数は2編程度とする。

4. 受賞論文が複数の著者(研究グループ等を含む)により執筆されたものである場合には、執筆者一同に論文賞を授与する。

5. 選考委員は、会長が専門分野を付記して推薦した10名以上の正会員のなかから、評議員の投票により選出される。得票数が同数のときは、専門分野の委員数が少ない者を委員とする。専門分野の委員数も同数の場合は、年長順とする。

6. 選考委員が受賞候補者となった場合には、

賞の選考に関与しないこととする。

7. 選考委員に欠員が生じた場合は、次点者を補充する。

8. 受賞候補者の推薦書類は、授与年の3月末日までに日本第四紀学会論文賞選考委員会宛てに提出する。

9. 受賞候補者の推薦書類には次の事項を記入する。推薦者名(自薦を含む)、受賞候補者名、受賞候補論文名(巻号頁を含む)及び推薦理由。

10. 会長は第四紀通信に論文賞受賞候補者の推薦募集に関する記事を掲載する。

11. 選考委員長は第四紀通信に受賞者と授賞理由を発表する。

## 日本第四紀学会2004年大会のお知らせ(第1報)

一般研究発表・総会・シンポジウム:

日程 2004年8月27日(金)~29日(日)

会場 山形大学(実行委員長 陶野郁雄)

シンポジウム「仮活構造と盆地の形成(予定)」

普及講演会 2004年8月28日(土)午後「活火山と活断層」

野外見学会 8月30日(月) 新庄盆地とその周辺を予定しています(案内者:八木浩司ほか)

講演の申し込みを含めて詳細は次号に掲載されます。皆さんの参加をお待ちしています。

## 学生会員の皆さまへ「学生会員継続届け」提出のお願い

2000年度から学生会員は、毎年在籍中であることを「学生会員継続届け」として提出して頂くことになっています。2004年度(2004年8月1日~2005年7月31日)を学生会員として継続希望される方は、A4判の用紙(様式自由・ワープロ使用)に、申請者の所属・学年・氏名・連絡先・指導教員氏名を明記のうえ、指導教員の署名または捺印を添えて、2004年4月16日(金)までに日本学会事務センターまで郵送してください。本届けが提出されない場合は、5月に予定されている会費請求時に、正会員会費にて会費請求がされますので、ご注意下さい。なお、本年度、学生会員として入会された方も提出願います。また、日本学術振興会特別研究員(PD)や科学技術特別研究員などは通常会員となります。

問い合わせ先: 庶務幹事 久保純子(早稲田大学)

(TEL: 03-5286-1583、E-mail: sumik@waseda.jp)

送付先: 〒113-8622 東京都文京区本駒込5-16-9

(財)日本学会事務センター3階 日本第四紀学会事務局宛

TEL: 03-5814-5801 / FAX: 03-5814-5820

提出方法: 郵便に限ります。

## Second IAG Yangtze Fluvial Conference June 20-29, 2004, Shanghai, China First Circular and Call for Abstracts

### Organizer

East China Normal University  
China University of Geosciences  
International Association of Geomorphologists  
Working Group on Large Rivers

### Co-organizer

Changjiang Water Conservancy Commission, China  
China Sedimentological Association  
APN/IGCP - 475 project

### Background

This follows the very successful Yangtze Fluvial Conference organized by the East China Normal University and the IAG Working Group on Large Rivers in October-November 1999 that resulted in the publication of two special issues of the journal *Geomorphology* in 2001 and 2002. The IAG Working Group on Large Rivers has also organized other meetings since its inception to maintain the research interest and exchange of information on large rivers.

The Yangtze, an exceptionally important river for China, plays a crucial role in landform evolution, transfer of water and sediment from the interior to the coast, and supply of nutrients to the ocean. Its fascinating form and behavior are intricately linked with the monsoon system of climate and large-scale regional tectonics. It is also an excellent example of the interaction between human and nature as reflected in basin land use, water utilization, and large-scale engineering structures on the river.

This conference provides a wonderful opportunity for the diffusion of knowledge regarding large rivers of the world (research results from any river are welcome) and for traveling along a part of the Yangtze Plateau. We sincerely invite you to participate this conference, bringing your idea from your river to share with others. Your participation is essential.

Post-conference publication (special issue on *Geomorphology*) is planned.

### Sponsors

China Natural National Science Foundation  
East China Normal University  
China University of Geosciences

APN/IGCP - 475 project

### Organizing committee

Chair: Qun CHEN, Vice President, East China Normal University, China

Vice Chair: Tai SHEN, Vice director/senior engineer of Changjiang Water Conservancy Commission, China

Secretariat: Zhongyuan CHEN, Professor, East China Normal University

### Academi Committee

Chair: Hongfu YIN, Academician, China University of Geosciences (Wuhan), China

Co-Chair: Avijit GUPTA, University of Leeds; Chair, IAG Working Group on Large Rivers

### Member

Adrian M. HARVEY, Professor, Department of Geography, University of Liverpool, UK

Andrew J. MILLER, Professor, University of Maryland, Baltimore, USA

Brian FINLAYSON, Associate Professor, The University of Melbourne, Australia

Changqing SONG, Director of Geographic Division of China Natural National Science Foundation

Colin R., THORNE, Professor, University of Nottingham, U.K.

E.M., LATRUBESSE, Professor, Universidade Federal de Goias-IESA, Brazil

Gordon E. GRANT, Professor of U.S. Forest Service, USA

Houze XU, Academician, Institute of Geodesy and Geophysics, Chinese Academy of Sciences

Jijun LI, Academician, Lanzhou University, China

Masataka WANANABE, Professor of National Institute for Environmental Studies, Japan

Richard A. MARSTON, Professor of School of Geology, Oklahoma State University

Shen Huanting, Professor of East China Normal University, Shanghai, China

Steve Goodbred Jr. Dr. University of New York, USA

Yin WANG, Academician, Nanjing University, China

Yoshiki SAITO, Dr. AIST, Geological Survey of Japan

### Conference themes

- Fluvial geomorphology and geology
- Monsoon effects on drainage basin
- Impact of drainage basin to Estuary
- Sediment sources, delivery and sink
- Water resources and management
- River hydrology and engineering
- Hazards and environment
- Modeling and GIS
- Human activity and sustainability

**Language :** English

**Location and time**

June 20-29, 2004 Shanghai, Wuhan

**Field excursion**

Two field trips are planned:

- 1) Upper Yangtze plateau: starting from Chengdu (by van/onfoot) to 3000- 4000 m elevated Minjiang plateau (one the six major Yangtze tributaries), where attendees are to observe large-scale alluvial fans; platforms; incised valley; neo-tectonic activities; changes of landuse; deforestation, and world heritage valley “Jiu-Zha-Gou” etc.
- 2) Starting from Chongqin (by boat) to 3-Gorges, attendees are to observe incised valley, alluvial fans, lesser gorges, hydrology, nature of rock formation, elevated water level of the first stage, new sites of migration, Dam-site, etc.

Detailed information on field trip will be given in 2<sup>nd</sup> circular or during the conference as Field Trip Guide.

**Schedule**

- 06/20 Registration (East China Normal University, Shanghai)
- 06/21 Opening ceremony (Morning); presentation (afternoon); Welcome dinner (6:30 pm)
- 06/22 Presentation at East China Normal University, China;
- 06/23 Presentation at East China Normal University, China (late evening; fly to upper Yangtze

at Chongqin/Chengdu);

06/24-27 Field trip (two-routes; details refers to above; fly to Wuhan at evening);

06/28 Presentation + closing (China University of Geosciences, Wuhan, fairwell party);

06/29 Return to Shanghai (by morning flight; city tour arranged);

06/30 Departure;

(Dates may be changeable subject to air-flight to Wuhan on 27 evening)

**Costs/financials**

US\$800, inclusive of lodging, food and field trip during the field trip. The Conference Organization keeps low cost for all participants rather than supporting individual. Limited funding is available for participants from developing country, on the basis of evaluation of abstract/presentation. Please keep contact with Z.Chen@sklec.ecnu.edu.cn or zychen@geo.ecnu.edu.cn

**Accommodation**

All participants will be housed individually in University Hotel (at three star level, except special request). In field, you may be asked to share with your colleagues.

**Abstract**

Abstracts should be emailed to the conference Secretariat by May 15, 2004, and addressed to Dr Zhongyuan Chen, Department of Geography, East China Normal University, Shanghai 200062, China Email: Z.Chen@sklec.ecnu.edu.cn Fax: 86-21-6223 2416 Tel. 86-21-6223 2706

Dr Avijit Gupta (School of Geography, University of Leeds, Leeds LS2 9JT, UK) can also be contacted for clarification regarding submission of abstracts and paper presentation.

Email: avijit@foxhill.demon.co.uk

Note: 2<sup>nd</sup> circular will be issued at the end of January 2004

## Registration Form

(Please return this form as soon as possible by email to Z.Chen@sklec.ecnu.edu.cn or by fax to 86-21-6223 2416)

Second IAG Yangtze Fluvial Conference  
Shanghai, China

Surname \_\_\_\_\_ Other Names \_\_\_\_\_

Prefix (select one) Professor / Dr / Mr / Mrs / Miss      Male [ ] Female [ ]

Address \_\_\_\_\_  
\_\_\_\_\_  
\_\_\_\_\_

Tel \_\_\_\_\_ Fax \_\_\_\_\_

Email \_\_\_\_\_

Provision title of paper (oral presentation)  
\_\_\_\_\_

Provisional title of paper (poster presentation)  
\_\_\_\_\_

Abstract enclosed      Yes [ ]      No [ ]

Signature \_\_\_\_\_ Date \_\_\_\_\_

### PEP2 Session at the Asia-Oceania Geoscience Society (AOGS) Conference Singapore, 5-9 July, 2004

'Low-latitude and high-latitude climates and linkages in the Asia Oceania sector in the late Quaternary'

The Asia-Oceania region is host to the Indo-Pacific Warm Pool and the tropical monsoon systems associated with it which have a wide impact on regional and global climate, climate variability and ocean circulation. The effects of this tropical climate system are also felt in mid and high latitudes of both hemispheres, which are also impacted by polar weather systems. We invite original research papers dealing with palaeoclimatic reconstructions of the tropical (monsoonal) climate system and the warm pool, high latitude climate systems or their interaction in the mid-latitudes of the Asia-Oceania region. Papers may include proxy evidence, modelling results or model validation using proxy data. This session is an activity of the Austral-Asia Pole Equator Pole (PEP 2) Transect project. (Session OA18)

The conference will include several sessions of

interest to PEP2 participants including South China Seas and Indonesian Throughflow, Asian Dust, Typhoons and Mesoscale Weather, Land-Ocean Atmosphere Interactions, Climate Change.

Find conference information, session titles and register at [www.asiaoceania.org](http://www.asiaoceania.org). Conference registration is US\$270/S\$450 by 10th May 2004; US\$320/S\$550 after 10th May 2004.

We hope to be able to offer financial assistance to presenters from developing countries.

The "Call for Abstracts" follows and we invite you to take the next big step. Submit your abstract online and invite your associates, friends and colleagues to follow suit. Abstract submission deadline is February 14th, 2004.

Simply log on to the AOGS website at <http://www.asiaoceania.org/submitabstract/> and follow the steps provided.

## 日本第四紀学会 50周年記念事業企画答申書

2003年8月29日

答 申

日本第四紀学会 会長 熊井 久雄 様  
 日本第四紀学会 幹事会 御中  
 日本第四紀学会 評議員会 御中

日本第四紀学会 50周年企画委員会  
 委員長 松浦 秀治  
 委員 阿部 祥人  
 奥村 晃史  
 河村 善也  
 中村 俊夫  
 兵頭 政幸  
 吉川 周作

日本第四紀学会では、学会の創立総会が1956年4月29日に行われ、2006年で50周年を迎えるにあたり記念事業を実施することが決定され、学会内に本委員会が設置された。本委員会の責務は、2002年度中に50周年記念事業の原案を作成して、幹事会ならびに評議員会に計画案を提示することである。

本委員会では、2002年12月2日付の熊井会長からの委員委嘱を受け、電子メールによる会議を重ねるとともに、下記の計3回の委員会を開催して企画・検討を行い、本日ここに本答申を提示し、併せて委員会を解散した。

2003年2月1日 第1回委員会  
 (於：明治大学駿河台校舎)  
 2003年6月24日 第2回委員会  
 (於：お茶の水女子大学)  
 2003年7月5日 第3回委員会  
 (於：お茶の水女子大学)

記

## 日本第四紀学会 50周年記念事業原案

本委員会では、以下の記念事業原案を作成した。企画にあたっては、事業の実現可能性を念頭に置いたが、日本第四紀学会の人的・資金的資源および時期的な問題等から、必ずしもその可能性が高いとは言えないものも含まれていること、また、これらの事業の全てを実施すべきであるという意ではなく、その候補として今後検討いただきたい性格のものであることを注記する。

なお、実際の記念事業の内容およびその実施等については、幹事会にて、あるいは新たに記念事業組織委員会や記念事業実行委員会などを設置して具体的に決定されたい。

## 1. 募金

学会50周年記念事業の準備資金および今後の日本第四紀学会の発展のための活動資金とする。学会の「予備費積立金」は2002年度末現在で560万円あるが、これは本学会の学会誌・会報の年間における発行・発送費(合計約950万円)に満たない額である。予備費積立金としてどの程度の額を確保すべきかについては議論のあるところであるが、学術論文を掲載する会誌の年間発行費用である約750万円がひとつの目安となる。したがって、会費収入等による通常の学会予算に計上できる支出とは別に学会50周年記念事業等への支出補填を可能にするためには、学会の予備費を少なくとも1,000万円程度にする必要がある。

## (1) 募金依頼案

a) 会費請求時に募金のお願いを同封し、会費に募金の口数に従った金額を上乘せした請求額を振込用紙に明記しておく。

b) 会費の請求とは別途お願いする。

## (2) 募金額案

以下のいずれにしても、50周年の次の募金は50年後の100周年の時になるであろうことを記し、ほとんどの方については今回が最後のお願いであることを強調する。

a) 一口5千円×1000口(1口×500+2口×250)=500万円

b) 一口1万円×600口(1口×400+2口×100)=600万円

## (3) 実施時期

2004年度会費請求時あるいは遅くとも2004年中

## 2. 記念セレモニー

## (1) 時期・場所

第1案：2006年4月末(1956年4月29日の学会創立に合わせて)

学会創立総会が国立科学博物館であったことから東京都内にて

第2案：2006年の年次学術大会開催(通常は夏期)に合わせる

## (2) セレモニー・プログラム

a) 記念展示 - 日本第四紀学会50年の歩み - 本学会の記録・写真および日本の第四紀研

究関係の貴重な資料を展示する。

b) 記念講演

企画3の記念シンポジウム(国内)を開催しない場合、あるいは記念シンポジウム(国内)と記念セレモニーを別々に開催する場合に実施する(講師は、たとえば学会会長経験者など1名の招待講演)。

c) 記念写真撮影

d) 記念式典

会長挨拶

会長経験者/学術会議会員等挨拶

祝辞(関連学会会長,関係の国会議員など)

顕彰(功績顕著な会員,賛助会員など)

「第四紀学宣言(あるいは人類紀科学宣言など)」の採択

(「人類紀科学」などの名称を採用する可能性については企画8を参照)

e) 記念祝賀会・懇親会

会費1万円程度

### 3. 記念シンポジウム(国内)

#### (1) シンポジウムに伴う調査

ここ50年にわたる日本の第四紀研究の総括として、学会誌「第四紀研究」等の出版物を調査し、主な研究テーマや研究成果などをリストアップし、分野・領域ごとに分類する。また、以下の項目に関する分析も実施する：1)日本の第四紀研究者がこの半世紀に行ってきた主な研究、2)国内での他分野への貢献、3)国際的な貢献、4)地域や社会・産業界への貢献、など。なお、調査・分析結果は、調査方法・統計の取り方等を明示して、印刷物として学会員に配布する。

#### (2) シンポジウム「日本の第四紀研究の未来(仮題)」

上記の調査・分析結果に基づき、招待講演による記念シンポジウムを開く。講演者は、分野ごとに研究の従来のがれと将来の方向性について講演する。

#### (3) 上記調査とシンポジウムの実行案

分野・領域：テクトニクス、地形学、古海洋学、古陸水学、古生物学、地質層序学(火山灰、レス・古土壌含む)、人類学・考古学、年代学・古地磁気学、その他

調査者(および分析者)：各分野1~3名

シンポジウム講演：調査者が人選し依頼する

開催時期：2006年の第四紀学会年次学術

大会時(大シンポジウムとして開催)

あるいは別途開催(企画4の国際会議を開催し、それを年次学術大会とみなす場合)

#### (4) 「第四紀研究」のシンポジウム特集号を刊

行する

### 4. 第四紀学に関する国際会議の主催

#### 4-1. 例1

##### (1) シンポジウムのテーマ

「第四紀のアジアにおける地球環境変動とヒトの拡がりおよび人間活動の影響」

International Symposium on Environmental Changes, Hominid Dispersal, and Anthropogenic Effects in the Asian Quaternary

##### (2) 趣旨

人類はおそらく中新世末のアフリカで誕生し、鮮新世にかけて様々な猿人段階の人類が分岐した。人類の最初の出アフリカは鮮新世後期におけるホモ属の出現後に起き、その後、第四紀を通じて少なくとも何回かアフリカからの拡散が繰り返されたと思われるが、各拡散においては、まずアジアに進出することから始まったといわれている。実際にアジアには古くからヒトの化石や居住跡がたくさん残されており、また現在世界人口の約60%がアジアに居住している。これらのことから、人類の長い歴史の中で、アジアの環境は特別なものと思われる。アジアの大陸や島嶼域における湖沼・陸成・縁海・浅海の堆積物等に残された第四紀の地球環境とテクトニクス、人類の進化と拡散、さらに人間活動の環境への影響などについて、氷床や深海底コアなどのグローバルな気候変化記録と照らし合わせて、高精度の議論を行う。併せて、今後の第四紀研究/人類環境史研究の発展のための道を模索する。

##### (3) 意義

人類の進化は第四紀学の中心的テーマの一つであり、さまざまな分野の研究者がこの問題に取り組んできた。この研究には、日本人を含む多くのアジア人研究者も多くの貢献をしてきた。一方、人類進化と深いかわりを持つ地球環境、とりわけ気候変化についても、最近50年間の研究成果には目覚ましいものがあり、まさに第四紀学会50周年記念にふさわしいシンポジウムであると考えられる。

##### (4) 開催時期

2006年の3日間(年次学術大会とは別途開催することが望ましいが、本国際会議を年次学術大会とみなすことも考えられる)

##### (5) 開催場所

国際会議ということで京都あたりがひとつの候補となる。

##### (6) 発表者等

###### a) 設定セッション

区分：おおむね以下の3つの時代に分ける

1)  $10^6$ 年~ $10^5$ 年(最終間氷期まで)

2)  $10^5$ 年~ $10^4$ 年(最終間氷期以降)

3)  $10^3$ 年以降(完新世)

## テーマ例

セッション1: テクトニクスと気候, 原人の出現・拡散, 旧人の出現・拡散, など

セッション2: 海面変化, 最終氷期, 旧人の進化・絶滅, 新人の出現と拡散, 石器文化から土器文化への変遷, など

セッション3: 後氷期の気候, 海面変化, 縄文文化, Anthropocene, 地球温暖化, など

講演者: 各セッション, 外国から2~3名, 国内から2~3名の招待講演

講演者の研究分野例:

バイカル, 極氷床, Loess/paleosol sequence, Deep-sea sediments, Lacustrine sediments, Paleoanthropology, Archaeology, Paleontology

## b) 一般発表

基本的にポスター発表とするが, 場合によっては口頭発表も1会場設ける。

## (7) 予算

外国人6~9名の招聘旅費が少なくとも200~300万円程度必要であり, 各参加者の参加会費は, 開催場所(会場)にもよるが, 2万円~4万円程度になると考えられる。

## 4-2. 例2

## (1) シンポジウムのテーマ

「日本の第四紀研究に関する国際シンポジウム - 地球環境変動の将来予測へ向けて - 」

International Symposium on Quaternary Research in Japan for the Understanding of the Future of the Global Environment

## (2) 趣旨

日本の第四紀研究の成果を振り返り, 地球規模の環境に関する課題の解決に資する部分を確認し, 世界に向けて発信するとともに, 日本の第四紀研究を世界的な視野からみなおして, 今後の展開・発展の方向と方針を考える。

## (3) 意義

地球環境変化とその将来予測に重点を置くことはINQUAの方針のひとつであり, 21世紀における今後のINQUA活動と国内の第四紀研究との関係を模索するとともに, 国際的な第四紀研究のながれの中で日本における研究の展開を図ることは, 本学会の将来構想のひとつとしての意義が大きいと思われる。

## (4) 主要な発表への準備等

あらかじめ日本の研究者による日本の第四紀研究のレビューを英文でとりまとめ, それを踏まえた「外部評価」を海外の研究者へ依頼する。その結果をもとに, シンポジウムの内容を検討する。

## (5) 備考

開催時期・場所については上記4-1の例と同様に考えられる。

規模に関しては, 1997年に東京大学山上会館において開催された「アジア・西太平洋地域における第四紀環境変動に関する国際シンポジウム (International Symposium on Quaternary Environmental Change in the Asia and Western Pacific Region)」では, 国内98名, 国外12カ国から42名, 合わせて140名の参加があり, これがひとつの目標となる。

なお, 上記企画例のような学会の将来構想等を含めたテーマの場合, 細分野にわけた複数の小規模セッションを設けると, 議論の集約化不足は免れないので, 総合的なシンポジウム・セッションを主とする必要がある。ただ, シンポジウム発表だけでなく, プレーンストーミングやフリートークの機会を設けることや, 限られた人数での技術セッションあるいはディスカッション・セッションの開催も, あらかじめ議論を深めるために必要であろう。

## 5. 「日本第四紀地図」の改訂新版(英文)の出版

## (1) 「日本第四紀地図」について

1987年に東京大学出版会から出版された日本第四紀学会編「日本第四紀地図」は, 当時の日本の第四紀研究の到達点を具体的に示した出版物で, 第四紀学分野の研究・教育はもとより, 社会にも多大な貢献をした。この出版事業は, 1985年に企画され, 日本第四紀学会30周年記念事業として取り組まれたもので, 編集幹事(貝塚爽平編集委員長)・編集委員および編集協力者を合わせると120名以上の会員が参加した大事業であった。1985年に編集作業がスタートし, 1986年の第四紀学会学術大会での原図の展示やシンポジウム「日本の第四紀研究の諸問題 第四紀地図の作成過程から」の開催等を経て, 1987年7月に出版された。日本第四紀地図は, 「地形・地質・活構造図」(各100万分の1の, A東北日本, B中央日本, C西南日本の3枚), 「先史遺跡・環境図」(400万分の1の, 最終間氷期, 最終氷期, 縄文, 弥生から古墳)と第四紀地図解説(計119頁)からなる。

## (2) 「日本第四紀地図」改訂新版

「日本第四紀地図」の企画・編集から約20年経った現在, この20年間の各分野における研究の進展は著しい。これら新しい研究成果, そして活断層研究や旧石器時代の見直しなどを含めて, 改訂・新版(英文)「日本第四紀地図」の出版は, 日本第四紀学会50周年記念事業にふさわしい企画である。また, 国内の第四紀研究を宣伝・紹介する上でも, 英文での出版が望

まれる。

(3) 改訂新版の使用言語等について

a) 英文版

一部あるいは全面改訂または新版とし、内容およびその具体化は、第四紀学会内に編集組織をつくり検討する。

b) 英文・和文併記版

英文版のみの出版も考えられるが、英文版だけでは販売数が限られ、学会の財政を圧迫するおそれがある。和文・英文併記版の出版も考慮した方が販売数の増加が望まれる。

(4) 出版方法

印刷本としての出版以外に、CD-ROMでの出版も検討する必要がある。

(5) 編集組織

日本第四紀地図(1987)の編集組織との関連を考慮しながら、多分野・全国規模の編集幹事・編集委員会を組織する必要がある。

6. 記念出版物

(1) 日本第四紀学会編「第四紀学 - その多様な発展 - (仮称)」

1977年に日本第四紀学会20周年記念として出版された日本第四紀学会編「日本の第四紀研究」(東京大学出版会)は、当時の日本の第四紀研究および日本第四紀学会の現状を表すものとして、会員は言うに及ばず会員外にも多く受け入れられた。それから約30年を経て、20世紀の第四紀学をレビューするとともに、21世紀での第四紀学の発展・展開につながる学会50周年記念版(日本第四紀学会編)を出版する。具体的な内容等については、学会内に編集委員会を設置して委嘱する。

(2) 日本第四紀学会編「第四紀学双書:全10巻(仮称)」

上記(1)は単行本としての刊行を想定しているが、規模を拡大した双書の出版も検討の余地がある。たとえば、各巻はそれほど厚くない全10巻程度のシリーズ本が考えられる。双書の名称例としては、学会名称の変更に関する検討(企画8)の結果にもよるが、「第四紀学双書:全10巻」「人類紀科学双書:全10巻」「人類環境史講座:全10巻」などが挙げられる。

(3) 「第四紀学事典(仮称)」

第四紀学は多岐・多分野にわたる学際的科学であることから、ともすればそれぞれの研究分野以外の専門用語に関する理解が不十分になる可能性も捨てきれない。1993年には日本第四紀学会編「第四紀試料分析法」(東京大学出版会)が発行され、ある意味では事典的なハンドブックとして利用されているが「第四紀学」を一般により普及させるためには、第四紀研究者はもとより、専門外の人にも利用しやすい

「第四紀学事典」あるいは「第四紀学用語事典」のような書物の出版が望まれる。

7. 特別展の開催

日本第四紀学会の50周年記念事業のうち、特別展については本会単独で実施することは極めて難しく、博物館等との共催行事として開催するのが望ましい。したがって、現実的に共催機関があり得るかどうかが鍵となる。そこで、1)どのような場所で、2)どのような内容で行事を行えるのか、3)行事を行った際、第四紀学会としてはどのような関わりが必要か(費用や労力提供なども含めて)、ということについて、模擬的な調査・検討を行った。具体的には、国内の博物館で第四紀がその館の展示テーマや学芸員の研究テーマに関係が深く、第四紀学会の会員が多いという点から、2003年の本会の年次学術大会が開催される大阪市立自然史博物館に相談した。同館の樽野博幸氏に事前に連絡の上、同館を訪れて本企画について種々相談するとともに関連する資料の収集を行った。その結果、同館では1993年に日本地質学会100周年記念事業の一環として、特別展「5億年の歴史:近畿地方のおいたちをさぐる」を日本地質学会関西支部と共催で開催していることがわかり、関連する資料や当時の関係者の話を詳しく聞くことができた。第四紀学会50周年記念事業の一環として博物館での共催行事を考えるにあたっては、このときのことが非常に参考になると思われるので、いくつかのポイントを以下にまとめておく。

1) 期間:夏休み期間(7~9月)

2) 展示のシナリオの作成:博物館と学会の共同の会議を3回ほど開いて作成した。

3) 展示物の準備:博物館の標本だけでなく、京都大学や地質調査所(当時)からも借用した。準備作業は博物館側で行った。

4) 展示解説の本(パンフレット):学会側で原稿を用意し、博物館側でリライトした。印刷などの仕事は博物館で行った。

5) 費用負担:学会側から50万円の資金提供があり、開会式とそれに関連する費用に使用した。

今回、大阪市立自然史博物館に出向いて相談をした結果、同館から日本第四紀学会50周年記念事業の一環としての特別展に積極的に協力してもらえるという感触を得た。同館の樽野博幸氏によれば2006年の特別展として以下のような案があり、これは展示する標本の多くが第四紀のものであるので、学会と相談して内容を修正し、本学会と共催とすることは可能とのことであった。以下に樽野氏の案をのせる。

(1) 特別展タイトル



大阪市立自然史博物館・日本第四紀学会共催 特別展「日本の哺乳類 500 万年」

(2) 趣旨

私たちが野生の哺乳類に出会う機会は、あまり多くない。彼らの多くは体が小さく、夜間に活動するものも多いからであろう。ところが、日本列島は狭い面積にもかかわらず、哺乳類の種類が豊富であり、地球上の他の地域では見られない哺乳類も多くすんでいることで知られている。これは、日本列島が南北に細長く、古くから山岳が発達し地形が複雑であること、海洋性気候で雨がが多く森林が広がっていること、そして、日本列島が大陸に近く、氷河性海水準変動によって、しばしば大陸とつながった歴史を持つことによる。

一方、旧石器時代以来、日本列島においても人類の活動は哺乳類相の変遷に大きな影響を与えてきたが、近年、多くの移入種が野生化することで、長い歴史を経て形成された日本列島本来の哺乳類相が改変されることが懸念されている。

この特別展では、500 万年前から現在まで、日本列島の地形や気候の変遷、さらには人類活動の拡大とともに、どのような哺乳類が現れ発展し消えていったのかを展示する。そして、我々ひとりひとりが、身の回りの自然が長い歴史を経て形成されたかけがえのないものであることを理解するとともに、その保全について考える機会としたい。

(3) 展示内容

1) 哺乳類とは

2) 日本の哺乳類相の特徴

3) 日本の哺乳類相の変遷

鮮新世前期（大陸の時代）

鮮新世後期（固有化の時代）

更新世前期・中期（陸地接続と侵入者）

更新世後期（固有化と絶滅）

更新世末期～完新世（人類活動と哺乳類）

4) 北海道の哺乳類相の変遷

5) 琉球列島の哺乳類相の変遷

6) 移入種と日本の自然

(4) 備考

日本地質学会100周年のときは、大阪以外の博物館でも同様の特別展があったようである。そのことから各地で同時開催も考え

られる。大阪市立自然史博物館以外で「第四紀」ということになると、豊橋市立自然史博物館、野尻湖ナウマンゾウ博物館などが考えられる。地域的な偏りを考えると関東の自然史系博物館も候補になり得る。しかし、1993年の大阪での例を参考にして実際に企画するとなると、第四紀学会の現在の力量が問題になる。それを考えると、資金面も含め、とても地質学会の様にはいかなないと考えられ、せいぜい1～2カ所で共催特別展を開くのが無理のない実現可能なプランであろう。実際には、大阪だけか他に1カ所くらいが良いと考えられる。

8. 「学会名称検討委員会（仮称）」の設置

「第四紀学」というのは、今の日本では残念ながら「市民権」を得ていない。第四紀研究連絡委員会が、かつて「第四紀研究所」の設立を答申したときにも、「第四紀学とはなんぞや」「なぜ第三紀学は無いのか」「地質時代のある部分だけを取り上げる意味があるのか」のような説明が求められたように聞いている。大学等研究機関でも「第四紀学」の認知度は極めて低く、未だに「第四紀学科」が設置された大学はなく、今後も新設が望まれる状況ではない。せめて教育科目だけでも、仮に「第四紀学」という教養科目を設けたにしても、多くの履修者が来ることは期待できない。

国際的にはINQUAがあり、対外的に「第四紀学」あるいは日本学術会議の「第四紀研究連絡委員会（第19期からは「第四紀学専門委員会）」という名称を捨てることはできないが、第四紀学が地球上における人類の進化・活動と環境との相互作用ということをひとつの主眼とするのであれば、それを生かしたアピールする名称（たとえば、「人類紀科学会」「人類環境史学会」など）を本学会（および学会誌等）に付すことは、日本における第四紀学の今後の発展にとって資するところが大きいと思われる。特に、大学等の研究機関において、第四紀学の専門家が、たとえば「人類紀科学」「人類環境史学」という看板を掲げて就職できるような環境が整備されることにつながっていけば、後継者の養成に多大に寄与することとなる。これこそ本会の50周年記念として意義のあることと考えられる。以上から、本学会内に「学会名称検討委員会（仮称）」の設置を答申する。

以上

## 第19期・第1回第四紀学専門委員会 議事録

日時：2003年12月1日(月)13:30～16:30  
 会場：日本学術会議第4部会室  
 出席：町田 洋 奥村晃史 川辺孝幸 河村善也  
 齋藤文紀 竹村恵二 松浦秀治 三田村宗樹 小  
 野 昭  
 欠席：岩田修二  
 (以下記録中敬称略)

はじめに世話人(町田)から、日本学術会議、研究  
 連絡委員会、そして第19期の地質科学総合研究連  
 絡委員会、第四紀学専門委員会、環境地質学専門委  
 員会の成立経過と現在の日本学術会議改編のいきさ  
 つが説明された。構成は次の通りである。

第19期から第四紀研究連絡委員会は「地質科学  
 総合研連の第四紀学専門委員会」に変わり、委員は  
 11名になった。委員は次のように各学協会からの  
 推薦に基づき会員が組織した。第四紀学会3(竹村  
 恵二・奥村晃史・小野 昭) 地質学会1(齋藤文紀)、  
 地理学会1(岩田修二) 古生物学会1(河村善也)、  
 応用地質学会1(三田村宗樹) 文化財科学会1(松  
 浦秀治) 地学団体研究会1(川邊孝幸) 学術会議  
 会員1(町田 洋) さらに国際対応1(多田隆治)  
 である。なお、「地質科学総合研連の環境地質学専  
 門委員会」11名は、応用地質学会3、第四紀学会2、  
 地下水学会1、地球化学会1、地学団体研究会1、地  
 質学会1、堆積学会1、学術会議会員1である。  
 以下報告、議事に入った。

### 1. 委員長、幹事ほかの選出：

何れも投票により選出。委員長に岩田修二、幹  
 事に竹村恵二、小野 昭を選出。但し選出された新  
 委員長は欠席であったため、了解打診のうえ次回に正  
 式決定。国際対応の委員として推薦で多田隆治を選  
 出し、次回までに了解を得ることとした。なお二つ  
 の専門委員会を統合した地質科学総合研究連絡委員  
 会の委員長は町田 洋がつとめることになった。

### 2. 最近の日本学術会議総会などの報告(資料あり)：

第19期第1回(第140回)総会・部会(2003年  
 7月22日～24日に開催)黒川会長、戒能、岸副会  
 長、幹事、各部長など決まる。第4部は郷部長、岩  
 村副部長、岡本幹事、室伏幹事。

第2回第4部会(2003年9月29日)。日本学術  
 会議の19期の活動全体計画に、「基礎科学の重要  
 性」を盛り込むべきことを決めた。新研究連絡委員  
 会は次の通り。1) 個体地球物理学研連、2) 理学  
 振興研連、3) 科学と社会研連、4) 学術情報発信  
 研連、5) 環境理学研連。

第2回総会・連合部会(2003年10月29日～31  
 日)。日本学術会議の19期の活動計画、日本学術会  
 議改編の経過説明と討議。

### 3. 第18期からの引継事項(資料あり)：

3.1 白書の出版 これまでの研連の活動について白  
 書形式の冊子を作ることを検討する。内容として

は例えば、第四紀研究の重要性のアピール、  
 INQUAなどを通じた国際的活動、日本第四紀学  
 会50周年記念事業の紹介、若手研究者へのア  
 ピール、社会へ向けた情報発信など。

3.2 INQUA 招致運動の経緯とその結果をふまえた  
 今後への展開の方法の模索。結果的に2007年日  
 本招致は実現せずオーストラリア開催が決まっ  
 た。招致の活動で得た問題点や可能性を今後どの  
 ように展開していくか、今後の戦略を練る必要が  
 ある。

4. 第19期第四紀学専門委員会の活動計画(資料有  
 り)：

4.1 JABEE Symposium 2003年12月25日

4.2 第17回国際堆積学会の開催(略称ISC2006)

URL <http://www.marinemesse.or.jp/kaigi/>

4.3 19期の活動計画について自由討議をおこなっ  
 た。

社会的に貢献できる第四紀研究とそのテーマや研  
 究機構を考える必要がある。白書の刊行や第四紀研  
 究の質的向上の方途などの課題があるが、今期は1  
 年半程度しか活動期間がないと予測されるので、ま  
 とめの仕事などは速く着手する必要がある。その際  
 アピールの対象は、一般、関連学協会会員、学術会  
 議会員など、多様であるので、どこに焦点を絞るの  
 かの検討が必要であり、ターゲットと主張の間の軸  
 がずれないようにしなければならない。次回まで  
 に、各人19期中に実現しうる具体的な素案を用意  
 し議論して、絞り込むこととした。

5. その他：学術会議共催で2005年1月に「北淡国  
 際活断層シンポジウム」を開催する予定である。

6. 次回の第四紀学専門委員会は2004年2月20日に  
 開催を予定。

(記録：小野 昭)

## 2003年度第3回幹事会議事録

日時：2003年12月13日(土)13:00-16:30

会場：早稲田大学教育学部16号館5階512演習室

出席者：真野副会長、山崎、小野、池原、河村、松  
 浦、町田(研連)

欠席者：熊井会長、奥村、兵頭、齋藤

記録：久保(庶務)

議事：

1. 報告事項

庶務

会員動向10月分、

受入図書(5機関から6冊) 各種案内

論文賞選考委員選挙の件(評議員へ発送)

山形大会科研費申請辞退の件

受入図書(歴史民俗博物館報告) 辞退の件

規定・内規書類の引継・確認

## 会計

会誌、会報印刷、発送、請求書の発送費用について

## 行事（報告事項なし）

## 編集

第四紀研究編集・刊行状況

査読者一覧の掲載

特集号編集状況

投稿が少ないこと

## 広報（兵頭幹事より事前報告）

第四紀通信 42 巻 6 号の配布

第四紀通信の表紙になりそうな適当な写真を提供願いたい。

写真はJPEG ファイルにしてメールで、あるいはプリントを郵送で、兵頭幹事宛

## 渉外（奥村幹事より事前報告）

自然史学会連合総会報告

2003 年 11 月 29 日 国立科学博物館新宿分館

1) 決算・予算案承認

2) 2004-2005 年連合代表選挙：鎮西清高氏を選出。次点：西田治文氏

3) 新規加盟学会 3 学会，合計 37 学会  
日本陸水学会・日本進化学会・植生学会

4) 理科教育における自然史教育の必要性につき学術会議等へのアピールを検討する。

5) 2004 年度総会・シンポジウム予定

2004 年 12 月 4 日（土）

予定『日本の自然史－多様な生き物たちのエピソード』

6) 自然史学会連合第 9 回シンポジウム

予測の自然史科学－未知と未来へのアプローチ－  
会場：国立科学博物館新宿分館 研修館 4 階講堂

（参加自由）

日時：平成 15 年 11 月 29 日（土）午後 1 時－5 時半

主催：自然史学会連合 共催：国立科学博物館  
発表

地球環境から地球環境問題へ－自然そのものによる進化と人類によるかく乱－

川幡穂高（産業技術総合研究所）

地球規模の植生指標と実蒸発散量の対応・季節変化  
野上道男（日本大学文理学部）

生物の絶滅と資源

松田裕之（東京大学海洋研究所）

ヒトゲノム研究と人類

徳永勝士（東京大学大学院医学系研究科）

## 企画

ミニシンポジウムのプログラム決定（ニュースレターに掲載）

ミニシンポジウムのポスターの準備、配布先、講師謝礼や旅費（非会員）

ポスターの配布先（評議員、講演者、賛助会員など）、1 月に発送

## 学会事務センター

役員名簿の件（確認）

## 2. 審議事項

## 庶務

2006 年国際堆積学会議後援依頼承認

情報学研究所電子図書館への参加（継続審議）

転載許可：山崎晴雄・水野清秀論文「足柄平野と国府津・松田断層」の図、第四紀研究 38、を藤岡換太郎ほか『伊豆・小笠原弧と神奈川』有隣堂、に掲載

抄録利用許諾：独立行政法人科学技術振興機構（旧科学技術振興事業団 JICST）

業務引継に伴う許可の継続（1993 年に許可済）

## 会計

広告料金表(案)を承認（別紙）

## 行事（審議事項なし）

## 編集

受理証明等の発行に際し、編集委員会公印を作成することを承認

投稿規程の適用開始日付を記載する件を承認

## 広報（審議事項なし）

## 渉外（審議事項なし）

## 企画

50 周年企画について、50 周年企画委員会の答申をふまえ、「50 周年記念事業準備委員会」を立ち上げることとした。委員会メンバーについては幹事会で候補者を選び、依頼中である。

## 3. その他

## 研連報告(町田)

第 19 期から第四紀研究連絡委員会は「地質科学総合研連の第四紀学専門委員会」に変わり、委員は 11 名になった。

委員は次のように各学協会からの推薦者に基づき会員が組織した。第四紀学会 3（小野 昭、奥村晃史、竹村恵二）、地質学会（斎藤文紀）、地理学会（岩田修二）、古生物学会（河村善也）、応用地質学会（三田村宗樹）、文化財科学会（松浦秀治）、地団研（川邊孝幸）各 1、および会員 1（町田 洋）、さらに国際対応 1（多田隆治）。

なお「地質科学総合研連の環境地質学専門委員会」11 名は、応用地質学会 3、第四紀学会 2、地下水学会、地球化学会、地団研、地質学会、堆積学会各 1、会員 1。

12 月 1 日に第 1 回の委員会を開催した。

7 月以後、第 19 期学術会議の総会および連合部会は 2 回、部会は 3 回開かれた。

## 主な議題：

会長、副会長、部長など執行部人事、各種委員会の立ち上げ

第 19 期活動方針の審議、策定

学術会議改革問題

地質科学研連委員長は町田；二つの専門委員会の委員長は研究連絡委員会の幹事をつとめる。

投票によりこの専門委員会の役員を選んだ。

第四紀学専門委員会委員長：岩田

幹事：小野 昭、竹村

なお環境地質学専門委員会委員長は千木良雅弘  
活動方針

日本学術会議の改革に伴い、第四紀研連今期の活動は 2005 年 3 月までと予想される。

短い期間だが、第四紀学の重要な役割を主張する活

動を行う。

各研究連絡委員会、専門委員会でもすでにそうした活動報告書を出してきた：古生物研連、地球化学研連など

また第四部(理学)でも基礎理学の重要性を主張することを今期の活動の大きな課題とする。理学一般および地球科学全般に共通する危機感がある。

第四紀学としても、学術会議や社会に対する訴えが必要。第四紀学会創立 50 周年記念行事で何をするかも課題、30 周年の活動が参考になる。

次回には具体案を出したい。

次回は1月10日14:00～早稲田大学教育学部にて開催の予定。

議題：1/31 評議員会中間報告のための準備

-----  
(別紙)

日本第四紀学会広告掲載料金表

[第四紀研究・第四紀通信]

<企業広告>

本文中づけ 1 頁 (B5 版): 30,000 円

本文中づけ 半頁 (B5 版): 20,000 円

<大学など公共機関からの広告>

本文中づけ 1 頁 (B5 版): 10,000 円

本文中づけ 半頁 (B5 版): 6,600 円

教官公募、本会会員に有益な情報(関連学会案内など)については、掲載無料とする。

広告の掲載、料金体系の判別は、幹事会が行う。

[会員名簿]

表紙 4 1 頁 (B5 版): 80,000 円 (賛助会員 40,000 円に割引)

表紙 2 1 頁 (B5 版): 70,000 円 (賛助会員 35,000 円に割引)

表紙 3 1 頁 (B5 版): 60,000 円 (賛助会員 30,000 円に割引)

本文中づけ 1 頁 (B5 版): 40,000 円 (賛助会員 20,000 円に割引)

本文中づけ 半頁 (B5 版): 30,000 円 (賛助会員 15,000 円に割引)

備考:

1. 版下制作費は広告主の負担とし、完全版下にて指定場所へ納品する。但し、頁構成による拡大・縮小はこの限りでない。
2. 第四紀通信については、編集の都合により、電子ファイル化した原稿の投稿を推奨します。
3. 料金の改定は幹事会で検討するものとする。

付記:

2003 年 12 月 13 日幹事会承認

第四紀通信に情報をお寄せ下さい

第四紀通信の原稿は随時受け付けております。  
広報幹事：兵頭政幸(mhyodo@kobe-u.ac.jp)宛にメールでお送り下さい。  
第四紀通信は奇数月月上旬原稿締め切り、偶数月1日刊行予定としていますが、情報の速報性ということから、版下が完成した段階でホームページに掲載するよう努力しています。奇数月15日頃にはホームページにアップするようになっていますのでご利用下さい。

日本第四紀学会広報委員会

神戸大学内海域環境教育研究センター 兵頭政幸

神戸大学大学教育研究センター 松下まり子

福島大学教育学部 後藤秀昭

編集書記 岩本容子

第四紀学会ホームページ <http://wwwsoc.nii.ac.jp/qr>から第四紀通信バックナンバーのPDFファイルを閲覧できます。